

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成21年4月2日 (2009.4.2)

【公開番号】特開2006-253748(P2006-253748A)

【公開日】平成18年9月21日 (2006.9.21)

【年通号数】公開・登録公報2006-037

【出願番号】特願2005-63289(P2005-63289)

【国際特許分類】

H 0 4 B 7/15 (2006.01)

H 0 4 W 16/26 (2009.01)

H 0 4 W 4/06 (2009.01)

H 0 4 M 3/42 (2006.01)

H 0 4 W 76/02 (2009.01)

【F I】

H 0 4 B 7/15 Z

H 0 4 B 7/24 A

H 0 4 B 7/26 1 0 1

H 0 4 M 3/42 1 0 1

H 0 4 B 7/26 1 0 9 G

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月12日 (2009.2.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

統制局と、複数の子局から構成され、

該統制局と子局間は 2 回線以上の回線で接続された無線通信システムであって、

前記統制局は、前記2 回線以上の回線の何れか一つを用いて前記複数の子局に対して通
報を行う通報手段と、

該通報の内容を記憶する記憶手段と、

前記複数の子局の各々の異常検出を行う異常検出手段とを備え、

通報を行った後に前記異常検出手段が異常を検出すると、前記複数の子局からの前記通
報の受信確認の受信状況に係わらず再度通報を行うことを特徴とする無線通信システム。

【請求項 2】

前記再度通報を行う場合、

前回通報を行った回線以外の回線、または、前回通報を行った回線を含む複数の回線
を用いて再度の通報を行うことを特徴とする前記請求項 1 に記載の無線通信システム。

【請求項 3】

統制局と、複数の子局から構成され、

該統制局と子局間は 2 回線以上の回線で接続された無線通信システムの無線通信方法で
あって、

前記統制局が前記2 回線以上の回線の何れか一つを用いて前記複数の子局に対して通報
を行う通報ステップと、

該通報の内容を記憶する記憶ステップと、

前記複数の子局の各々の異常検出を行う異常検出ステップと、

前記通報ステップの後に、前記異常検出ステップにより異常を検出すると、前記複数の子局からの前記通報の受信確認の受信状況に係わらず再度通報を行う再通報ステップを備えたことを特徴とする無線通信方法。

【請求項 4】

前記再通報ステップを行う場合、

前記通報ステップを行った回線以外の回線、または、前記通報ステップを行った回線を含む複数の回線を用いて再通報ステップを行うことを特徴とする前記請求項 3 に記載の無線通信方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

上記問題点を解決するため請求項 1 に記載の発明は、統制局と、複数の子局から構成され、該統制局と子局間は 2 回線以上の回線で接続された無線通信システムであって、前記統制局は、前記 2 回線以上の回線の何れか一つを用いて前記複数の子局に対して通報を行う通報手段と、該通報の内容を記憶する記憶手段と、前記複数の子局の各々の異常検出を行う異常検出手段とを備え、通報を行った後に前記異常検出手段が、異常を検出すると、前記複数の子局からの前記通報の受信確認の受信状況に係わらず再度通報を行うことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

上記問題点を解決するため請求項 2 に記載の発明は、前記請求項 1 に記載の無線通信システムであって、前記再度通報を行う場合、前回通報を行った回線以外の回線、または、前回通報を行った回線を含む複数の回線を用いて再度の通報を行うことを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

上記問題点を解決するため請求項 3 に記載の発明は、統制局と、複数の子局から構成され、該統制局と子局間は 2 回線以上の回線で接続された無線通信システムの無線通信方法であって、前記統制局が前記 2 回線以上の回線の何れか一つを用いて前記複数の子局に対して通報を行う通報ステップと、該通報の内容を記憶する記憶ステップと、前記複数の子局の各々の異常検出を行う異常検出ステップと、前記通報ステップの後に、前記異常検出ステップにより異常を検出すると、前記複数の子局からの前記通報の受信確認の受信状況に係わらず再度通報を行う再通報ステップを備えたことを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

上記問題点を解決するため請求項 4 に記載の発明は、前記請求項 3 に記載の無線通信方

法であって、前記再通報ステップを行う場合、前記通報ステップを行った回線以外の回線、または、前記通報ステップを行った回線を含む複数の回線を用いて再通報ステップを行うことを特徴とする。